

アルバート・ブーラ

Dr. Albert Bourla

米ファイザー社 会長兼最高経営責任者
Chairman and CEO (Chief Executive Officer), Pfizer Inc.



米ファイザー社 アルバート・ブーラ会長兼最高経営責任者(CEO)は、企業目的“患者さんの生活を大きく変えるブレイクスルーを生み出す”を掲げ、ヒューマンヘルスに革新的な影響をもたらすために必要な科学・産業上のイノベーション推進に注力しています。

ブーラ会長兼CEOは、ファイザーにおいて30年以上にわたり、5か国において幅広い市場や分野で要職を務めてきました。こうしたグローバルレベルでの経験を通じ、医療制度や患者のニーズに対する理解を深め、さらなるイノベーションへの取り組みに尽力しています。

2019年1月にCEOに就任した後、彼はファイザーの変革を加速させ、よりサイエンスをコアとした企業へと進化させました。一部の事業を売却し、研究開発(R&D)とテクノロジーへの投資を強化させたのです。社内の人材やサイエンスの成長・進展を促進する企業カルチャーを創出するため、エグゼクティブ・リーダーシップ・チームとともに、同社のPurpose Blueprintを策定しました。Purpose Blueprintには、「勇気(courage)」、「卓越(excellence)」、「公平(equity)」、「喜び(joy)」の4つのバリュー(価値規準)が含まれます。

ファイザーの卓越性と企業文化については、新型コロナ感染症によるパンデミックへの対応から見て取ることができます。ブーラは、公的資金を受け入れることなく20億ドル以上の自社資金を投入し、社員たちを率い、安全で効果的なワクチンの開発を、通常なら8～10年にかかるといわれるところ、わずか8カ月で、しかも品質やインテグリティの面で妥協することなく実現しました。また、1年後には、サイエンスの進展を加速させながら、COVID-19を適応とした経口抗ウイルス治療薬を開発し、同剤は世界で初めての経口COVID-19治療薬としてFDAの承認を受けることとなりました。現在、同社はこの時に得られた知見と経験の多くを、がん、内科、炎症・免疫、ワクチンを含む4つの治療分野でのプロジェクトに活かしています。

ブーラのリーダーシップの下、ファイザーはがん治療の軌道を変える取り組みにおいて世界をリードする企業の一つとなっており、2030年までに複数の画期的ながん治療薬を提供する堅固な開発パイプラインを有しています。また、同社は人工知能(AI)などの最先端技術を積極的に取り入れており、これらは創薬、臨床試験、製造に大きな影響を与えています。

ブーラは獣医師で、Aristotle大学獣医学校 繁殖生物学分野で博士号を取得しています。彼はジェネシス賞の受賞者であり、また、米国がん研究協会(AACR)から、がん科学と医療への貢献に対する卓越した功績を残したとして、賞を授与されています。また、名誉毀損防止同盟(ADL)から「**Courage Against Hate Award**」、コンコルディアから「**Leadership Award**」など、数々の賞を受けています。さらに、Fortune誌の「ビジネス界で最も影響力のある人物」、Time誌の「医療分野で最も影響力のある100人」、CNN Businessの「CEO of the Year」に選ばれ、Crain's New York Businessの殿堂入りも果たしました。米国製薬研究製造業協会(PhRMA)とファイザー財団の取締役会会長を務め、ニューヨーク市パートナーシップの取締役会共同会長でもあります。以前は、国際製薬団体連合(IFPMA)の会長も務めていました。

ブーラの情報は、X(旧Twitter)では @AlbertBourla、LinkedInでもご覧いただけます。